

# データベースソフトを用いた読解プリント教材とその作成ツールについて

神谷 健一 (大阪工業大学)

## 1. 研究の背景

英語学習において読解や精読は重要な領域であるにもかかわらず、そのための効果的な教材が授業担当者によって作成されることはあまりないという印象がある。様々な試みがある中で、教員側の負担が大きいことから、結局は文法訳読や輪番制に陥ってしまうことも多い。また「予習をしない学生」は教員にとって悩みの種でもある。

語学教育の現場でも近年 IT 化が進み、ワープロ、表計算、プレゼンテーションなどのアプリケーションソフトもよく用いられるようになった。しかしデータベースソフトについては、教務管理などを除けばまだ導入の事例は少ない印象がある。本研究では効率的な授業展開に有効で、かつ学生が「予習したくなる」読解プリント教材を、教員が短時間で作成することができるツールをデータベースソフトを用いて開発した。

## 2. 教材作成ツールについて

データベースソフトの大きな利点はデータとレイアウトを別々に保持できることであり、同じデータを用いながら、その用途に応じた様々なレイアウトで出力することができる。

このツールは一種のソフトウェアであるが、操作するために必要な技能はテキストエディタおよび表計算ソフトの単純な操作に限られるため、コンピュータに詳しくない教員も容易に利用することができる。またランタイム版の環境であるため、利用者がデータベースソフトを所有する必要はない。ツールは無料で公開しており、随時改良や更新も行っている。

公開サイトは以下の通り。

<http://www.oit.ac.jp/ip/~kamiya/prw/prw.html>

## 3. 教材作成ツールによるプリント教材

このプリント教材は英文を **Phrase Reading** によって学習するためのものである。教員は授業前に教科書など利用したい教材のテキストデータを用意し、意味のまとまりごとに改行を入れていく。完成したデータ

をこのツールで処理するとレイアウトが自動で整えられ、B5 サイズで出力される。300 語程度の英文であれば B5 版 4 ページとなり、B4 用紙の両面印刷 1 枚で収めることができる。(標準レイアウトの場合)

標準レイアウトでは用紙の左半分に文番号と句番号、**Phrase** が表示され、右半分は空白となっている。用紙を縦方向に山折りにすると、右半分はそれぞれの意味を予習として記入するためのスペースとなる。短い **Phrase** を順番に提示していく形であるため、学生にとってはかなり予習しやすい形式のようである。

教員が授業前に各 **Phrase** の日本語訳を表計算ソフトで準備しておく、このツールは一層効果的に利用できる。例えば、学生が行ってきた予習内容のチェックは時間のかかる作業であるが、行間を縮小し左右に英語と日本語を並べた解答例レイアウトのプリントを作成して配布すると、各自が予習してきた内容を 5 分程度でチェックすることができる。また標準レイアウトの右半分に予め各 **Phrase** の意味を入れた教員用レイアウトを出力し、授業時に携帯すると便利である。他にも、簡単な **Phrase** の意味のみを予め挿入しておく等の用途で利用できる部分消去型レイアウトや、各 **Phrase** の日本語訳を左側に表示し、右側の英語 **Phrase** を見せない形となる左右反転型レイアウトも用意されている。

記入欄を広めにとったレイアウトも含めると同一のデータから最大 14 種類のプリント教材をマウスでメニューから選択するだけで作成することができる。

## 4. 授業実践例

発表者はこれまでに高等学校で 4 年間、大学で 3 年間、このプリントを使った授業を行っているが、当初は予想しなかった様々な活用法を自ら発見しながら授業に取り入れ、ツールの改善も行ってきた。また既に約 20 名の先生方にも使って頂いている。

このプリントでは文番号と句番号を用いているため、授業中も説明すべき場所を明確に指示することができる。また各 **Phrase** が縦方向に並んでいるため、英文を後

戻りしながら読んでいくのではなく、自然と直読直解へと結びつけることができる印象がある。教材中で必要な文法事項や構文も、工夫次第では文法用語をほとんど使わずに説明できるため、英語あるいは英文法が苦手な学習者にとってもさほどの困難を感じずに学習を進めていけるようである。用紙下部に設けたメモ欄は重要語句や構文等の説明の記入用に利用できる。

このように予習から授業へと効果的な橋渡しができるプリントであるが、予習チェックが短時間で済むという利点を生かし、授業時間内には様々なタスクを取り入れることができる。例えば、教科書本文の音声テープ等を利用する場合、通常の授業スタイルであれば最初と最後に1回ずつ聴かせる程度であるが、導入前に教科書を見ながら、プリントの各 **Phrase** のみを見ながら、プリントに記入した日本語訳のみを見ながら、といった異なる方法を取り入れることで、学生の聴解力向上を目指すことができる。

英文を繰り返し目に触れさせるための工夫もいろいろ可能である。予習と称して教科書本文の行間に小さい字で書き込みを行う学生が散見されるが、このようなプリントを別に用意しておく、予習はプリントへの書き込みだけで完了し、説明等を済ませた後も教科書は書き込みのないままで保たれるため、プリントを利用した後に、今度は「白文」の教科書を用いた練習が可能である。標準レイアウトのプリントは各 **Phrase** が中央揃えになるが、この中央位置に縦方向に1本線を引き、線だけを目で追いかける速読訓練や、各 **Phrase** を **Tempo=120** のメトロノームに合わせて読ませる練習は学生からも好評である。

教室内の学生に学力格差がある場合にはこのプリントを利用した別々のタスクを与えることもできる。記入後のプリントを縦方向に山折りにさせ、英語を苦手とする学生には英語側を見るよう指示し、可能な限り各 **Phrase** の日本語訳を思い出させる一方で、英語を得意とする学生には、日本語訳の方を見ながら元の **Phrase** を思い出していくよう指示する。すなわち英語を得意とする学生は授業範囲の英文解釈にとどまることなく、発信力をさらに高める練習も可能となる。

このプリントは授業終了後も復習用として効果的な利用が可能である。テスト直前になるとどこかから入手した本文の和訳を必死で暗記する学生の姿が時折見受けられるが、むしろこのプリントを山折りにして、

可能な限り多くの **Phrase** の意味を日本語で言えるように指導する方がよっぽど効果的ではなからうか。

ところで、予習としてプリントに記入させる際には和訳先渡しで行うこともできる。こなれた日本語で書かれた和訳が用意される場合が多いが、これを各 **Phrase** として分解しながら意味を考えさせる学習も効果的であろう。

## 5. 応用可能性

このツールで用いるデータはテキストエディタを用いて編集するものであるから、題材は教科書にとらわれる必要もない。通常の教科書以外にもインターネットから入手した最新の新聞記事などをツールで加工し随時投げ込み教材として利用することも可能であろう。現時点では実現できていないが、フリーの英文素材をこのツールで加工してネット上に置いておいたり、ツール自体を **Web** アプリケーションに加工しておくことで、レベル別オンデマンド教材配信への可能性も見えてくる。

このツールの文字コード処理は **Unicode** を採用しているため、英語以外の言語でも利用が可能である。これまでにフランス語、ドイツ語、韓国語、中国語でも教材サンプルを作成しているが、日本語と語順が同じである韓国語の場合は、さらに違った角度から教材としての応用が可能であろうし、中国語については漢字をピンインに直させる練習などにも活用できる。

近年は **e-learning** をはじめとする情報機器活用型の教育や研究が盛んに行われているが、従来の教材用メディアである「紙」と連携させる観点に立った研究はあまり行われていない。ビジネス用途で広範に利用されるデータベースアプリケーションは本研究が示すように、語学教材の改善への可能性を秘めている。教材を開発するための教具という位置づけから今後も様々なソフトウェアの開発に取り組むとともに、この領域の発展可能性を模索していきたい。

※本研究は平成18年度～平成20年度文部科学省科学研究費補助金(若手研究(B))の助成により、研究課題「高大連携を見据え授業に生かす教員支援のための英語教育データベースの設計と利用」の一部として継続して研究を行う計画である。